

小学生の 音楽

3

指導者用デジタル教科書（教材） 音声テキスト

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

目次

P. 7	リズムでなかよくなるろう	2
P. 8	ドレミで歌おう	2
	ゆび 指くぐり	2
	ゆび 指またぎ	2
	きこつ ト音記号の書き方	2
P. 20	リコーダーのえんそうのしかた	3
P. 23	練習1	4
	てびょうし 手拍子でリズム	5
	がくしゅうかつどう 学習活動1	5
	がくしゅうかつどう 学習活動2	5
P. 36	歌声	6
P. 48, 49	いろいろな金管楽器	6
	トランペット	6
	ホルン	6
	トロンボーン	6
	チューバ	6
P. 58	使われている楽器	7
	がっき たいこ	7
	ふえ	7

	かね	7
	がっき P. 59 使われている楽器	8
	たいこ	8
	ふえ	8
	かね	8
	かんだばやし たてのきくお P. 60 神田囃子ほぞん会 立野喜久雄さんのお話	9
	がっき P. 61 使われている楽器	10
	ながどう 長胴だいて	10
	しめだいて	10
	かね	10
	しのぶえ	10
	な しょうが P. 62 「投げ合い」の唱歌	11
P. 63	たいこにちょうせん	11
	しめだいて	11
	ながどう 長胴だいて	11
	おんぶ	11
P. 65	音符の書き方	12
	おんぶ 2部音符	12
	おんぶ 4部音符	12

P.7 リズムでなかよくなるう

リズムをよくきいて、みんなはそれをまねて、^う打ってみてください。それでは、はじめます。

リズムをかえて^う打ちます。

^{こんど}今度は、リーダーが^う打つリズムをまねして、それをリレーしてみましよう。それでは、はじめます。

^{はく}拍にのって、うまくリレーすることができましたね。

P.8 ドレミで歌おう

^{ゆび}
指くぐり

「ドレミで歌おう」の1だん目をひくときは、「^{ゆび}指くぐり」をします。「ミ」のあとで、

^{おやゆび} ^{なかゆび}
親指が中指の下をくぐるようにしましよう。では、2回ひきます。

^{ゆび}
指またぎ

「ドレミで歌おう」の2だん目をひくときは、「指またぎ」をします。「ファ」のあとで、

^{なかゆび} ^{おやゆび}
中指が親指の上をまたぐようにしましよう。では、2回ひきます。

P.9 ト音記号^{きごう}の書き方

この^{きごう}記号を、ト音記号^{きごう}といいます。ト音記号^{きごう}を書きます。

P. 20 リコーダーのえんそうのしかた

教室のみなさん、さあ、いっしょに、リコーダーを手にとってみましょう。右手で下のほうを持って、左手の親指で、うしろの音あなにそっとふれて、人さし指、中指、薬指のじゅんに、音あなをとじていきましょう。ここを指のはらといいます。この指のはらを音あなにふれて、そっととじましょう。おさえたり、ふさいだりして、力が入らないようにしましょう。次に、右手の人さし指、中指、薬指、小指のじゅんに、音あなをとじましょう。このように、音あなをさすると、音あながとじていることが、よく分かります。小指は短いので、この部分を小指に近づけるように、こうして回しましょう。それでは次に、右手の小指、薬指、中指、人さし指。今度は、左手の薬指、中指と、音あなをじゅん番に開けてみましょう。左手の人さし指と、親指、そして、右手の親指が、リコーダーにさわっていますね？ ほかの指は、上にあげすぎないように、気をつけましょう。この右手の親指のいちは、リコーダーをバランスよくささえるために、とても大切なポイントです。次に、あごを引いて、せすじを自然にのばしましょう。歌口を下くちびるにそっとのせ、このように、上くちびるをそっとつつむようにのせます。このとき、歯でかんだり、くわえたりしないように、注意しましょう。

P. 23 練習1

では、リコーダーで、歌うようにふいてみましょう。左手の親指おやゆびと人さし指ゆびで、音あなを
として、右手の親指おやゆびは、このあたりでささえます。これが「シ」の音の指づかいです。で
は、シの音で（～♪）、はい。

もう一度いちど（～♪）、はい。

はい、とってもきれいに、歌うようにひびきましたね。

P. 30, 31 手拍子でリズム

がくしゅうかつどう 学習活動1

まず、画面のリズムを、拍にのって、手拍子で打ってみましょう。

小さいまとまりのリズムが、くり返されているのが、分かりましたか？ 今度は教科書の、もとのリズムを打ってみましょう。

小さいまとまりのリズムがくり返されたあとに、大きいまとまりのリズムがつづくと、後半の感じがかわって、変化が生まれましたね。もとのリズムは、このようなしくみでできています。

がくしゅうかつどう 学習活動2

教室のみんなも、このしくみを参考にしながら、「タン」と「タタ」のリズムを使って、

4小節のまとまりのあるリズムをつくってみましょう。

「ぼくは、小さなまとまりのリズムでは、『タタ』の一つだけを使って、後半の大きいまとまりのリズムでは、『タタ』を多めに使って変化をつけてみました。」

P. 36 歌声

まず、歌うときのしせいをたしかめてみましょう。足を軽く開いて、せなかをのばしたまま、かたを上げ、かただけをゆっくり下ろして、歌うときのしせいをつくります。声を、おでこのあたりにひびかせて、息を遠くのほうへとどかせるような感じで、歌いましょう。

息がなめらかに流れていますか？ こんな感じになっていませんか？

このような歌い方だと、のびのびとした感じが出ませんね。

息の流れがよくなって、のびのびとした歌声になりますね。

P. 48, 49 いろいろな金管楽器

トランペット

これは、トランペットです。

ホルン

これは、ホルンです。

トロンボーン

これは、トロンボーンです。

チューバ

これは、チューバです。

P. 58 使われている^{がっき}楽器

たいこ

祇園囃子^{ぎおんばやし}では、「しめだいこ」をえんそうします。たいこのえんそう者^{しや}には、曲^{きょく}の始^{はじ}まりや曲^{きょく}目を、かけ声で知らせたり、曲^{きょく}の速^{はや}さを決^きめたりするやくわりがあります。しめだいこは、両^{りょうめん}面^{めん}のかわをひもでしめた、たいこです。

ふえ

ふえは、竹でできた^{がっき}楽器^{がっき}です。楽器^{がっき}を横^{よこ}にかまえて、えんそうします。日本のふえには、いろいろなしゅるいがありますが、祇園囃子^{ぎおんばやし}では、「のうかん」というふえを、えんそうします。

かね

かねは、金ぞくでできた^{がっき}楽器^{がっき}です。「長^{なが}刀^{やいば}鉾^{ぼこ}」では、囃子^{はやし}を始^{はじ}めたばかりの9さいから19さいくらいの人たちが、かねをえんそうします。このように、ひもでつるしてえんそうするのが、とくちょうです。これは、かねの^{がくふ}楽譜^{らくふ}です。三角^{さんかく}で表^{あらわ}された「コン」や、3つの丸^{まる}を線^{せん}でむすんだ「チキチン」などの音を組み合わせ、えんそうします。

P. 59 使われている^{がっき}楽器

たいこ

ねぶた囃子^{ばやし}では、直^{ちよっ}けいが93cm、長さが1m10cmある、とても大きなたいこをえんそうします。「胴^{どう}」の部分は、板^{いた}を組み合わせて作られており、両^{りょうめん}面^{めん}のかわは、麻^{あさ}のロープでしめられています。

ふえ

ふえは、竹^{たけ}でできた^{がっき}楽器^{がっき}です。楽器^{がっき}を横^{よこ}にかまえて、ふきます。日本のふえには、いろいろなしゅるいがありますが、ねぶた囃子^{ばやし}では、「しのぶえ」というふえを、えんそうします。

かね

かねは、金^{かね}ぞく^{ぞく}でできた^{がっき}楽器^{がっき}です。ねぶた囃子^{ばやし}でえんそうするかねは、シンバルを小さくしたような形をしており、「手^て振り^{ふり}鉦^{かね}」あるいは「手^て平^{ひら}鉦^{かね}」と、よばれています。たいこやふえのえんそうをよくきいて、速度^{そくど}をたもっていくやくわりがあります。

P. 60 神田囃子ほそん会 立野喜久雄さんのお話

東京都の神田明神で行われます、神田祭でえんそういたします。神社の神楽殿でえんそうしたり、氏子各町会のおみこしや、山車についてまわって、えんそうしたりもします。

江戸時代からつづく「日本三大祭り」のひとつのお祭りです。今では、2年に一度の5月に、開さいされます。

神田囃子は、「長胴だいこ」1人、「しめだいこ」2人、「しのぶえ」1人、「かね」1人の5人1組でこうせいされる、五人囃子です。

おはやしは、主役ではありません。遠くから聞こえてくるおはやしに、ついさそわれて、外に出てきた氏子の方々のお祭り気分を、もりあげます。

「投げ合い」は、おはやしの中で一番にぎやかな曲です。神様がのる、おみこしをかつぐ人たちが、「投げ合い」のリズムにのって、にぎやかにかついでもらおうと、気分はさい高です。

P.61 使われている^{がっき}楽器

^{ながどう}長胴だいこ

^{ながどう}長胴だいこは、木でできた^{どう りょうめん}胴の両面に、びょうでかわをとめた、たいこです。「ドン」というひくい音がします。^{かんだばやし}神田囃子では、このたいこのことを^{おおど}「大胴」、あるいは「大だいこ」といいます。

しめだいこ

しめだいこは、両面のかわを、ひもでしめた、たいこです。「テン」という高い音がします。^{かんだばやし}神田囃子では、このたいこのことを^{しら}「調べ」といい、二人でえんそうします。

かね

かねは、金ぞくでできた^{がっき}楽器です。^{かんだばやし}神田囃子では、この^{がっき}楽器のことを^{よすけ}「四助」といいます。ほかの4人のえんそう者^{しゃ たす}を助ける、大切なやくわりをもっています。

しのぶえ

しのぶえは、「しのだけ」というしゅるいの、竹でできた^{よこぶえ}横笛で、せんりつをえんそうします。^{かんだばやし}神田囃子では、その音色が、鳥のとんびの鳴き声ににていることから、しのぶえのことを「トンビ」といいます。

P. 62 「投げ合い」の唱歌

しめだいこの唱歌をおぼえましょう。

唱歌をおぼえたら、しのぶえに合わせて、唱歌を歌ったり、リズムを打ったりしてみましよう。

P. 63 たいこにちょうせん

しめだいこ

これは、しめだいこです。かん高くて、はなやかな音がします。ばちの先たんで、打面の中心を、少し外して打ちます。それでは、えんそうしてみます。

ながどう
長胴だいこ

これは、長胴だいこです。鉄のびょうでかわを胴に打ちつけてあるので、「鋳打だいこ」
ともよばれています。ばちの先たんで、打面の中心を打ちます。また、ふちを打つ場合
もあります。それでは、えんそうしてみます。

P. 65 ^{おんぷ} 音符の書き方

^{おんぷ} 2分音符

^{おんぷ} 2分音符は、このように書きます。さいしょに玉を書いて、次にぼうを上から書きます。

^{おんぷ} 4分音符

^{おんぷ} 4分音符は、このように書きます。さいしょに玉を書いて、次にぼうを上から書きます。
